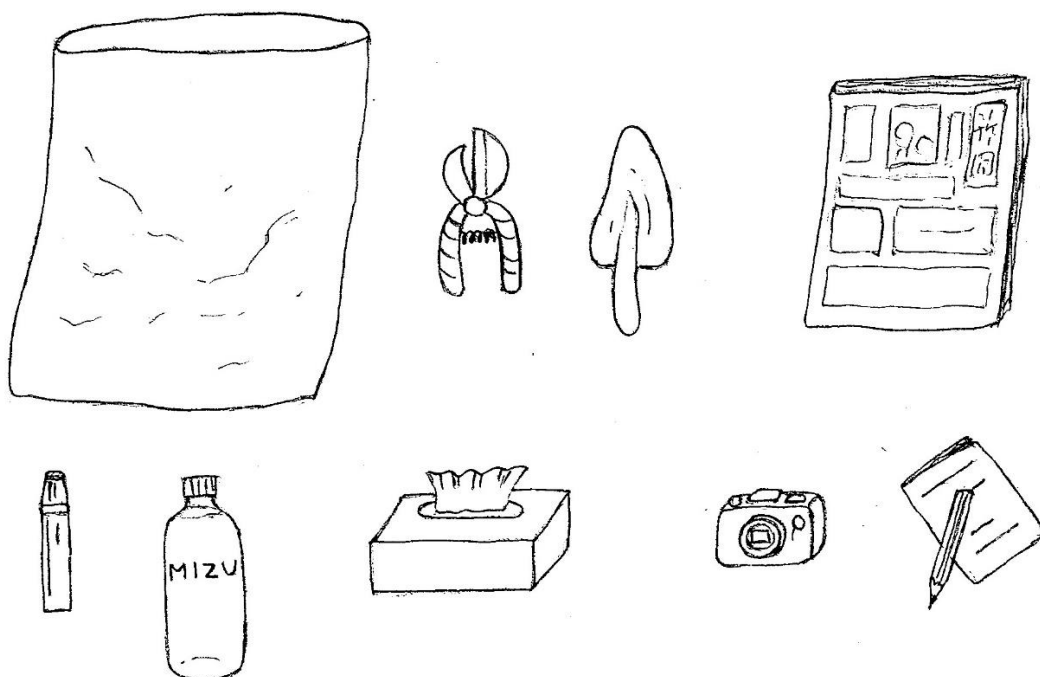


植物のおしば標本のつくり方

1. 用意するもの

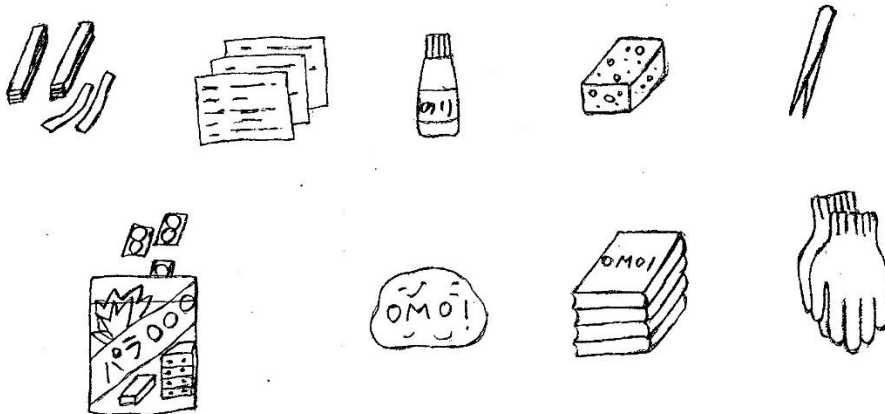
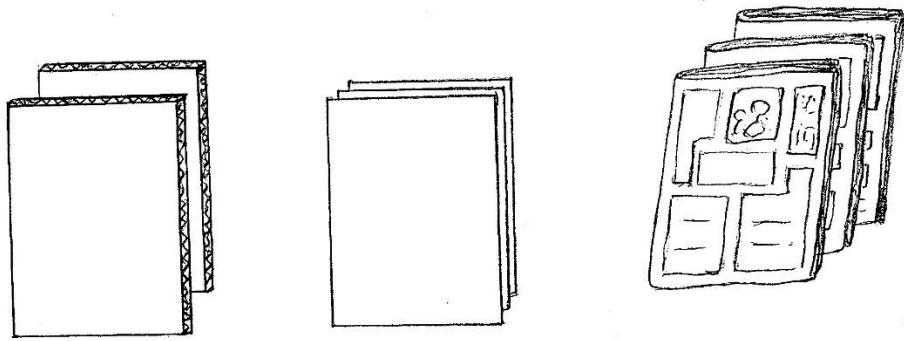
1-1. 採集のための道具

大きいビニール袋 せんてい用のはさみ（植物を切るためのはさみ） 根ほり（小さなスコップ） 新聞紙 ティッシュペーパーと水（とった植物がよわらないようにしめらせます） 植物ずかん カメラ（記録するのにべんり） ひっき用具



1-2. 標本づくりのための道具

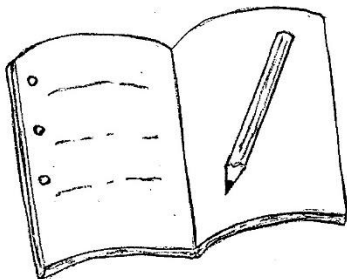
段ボール 台にする厚紙（画用紙やケント紙） 細く切った紙 標本ラベルの紙 のり（アラビアのり、でんぷんのり） おもり（おもしろやぶあつい本など） 防虫剤（洋服用の虫よけでよい） 植物ずかん ピンセット（あるとべんり）



2. 植物採集に行こう

2-1. 植物を取ろう

- ・植物を取る前に、どのようなところ（環境）に生えているかかんさつしてきろくしましょう。明るいところ、暗いところ、町なか、山の中、川の近くなど場所によって、生えている植物がちがいます。ずかんで名前がわかればいっしょにきろくしましょう。

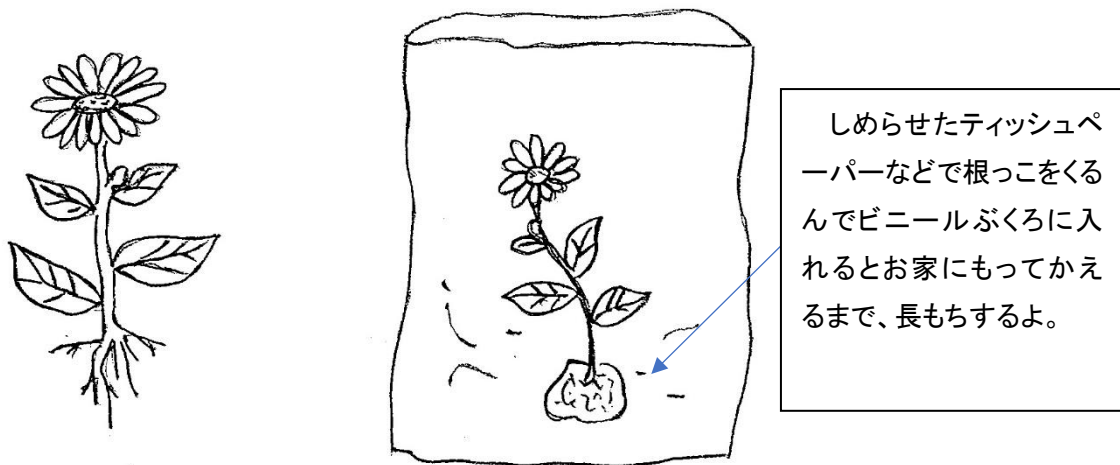


植物の生えていた場所のきろくはとても大切です。よく観察して、わすれないようにメモしておきましょう。

- ・小さな草は根ほり（根をほるための小さなスコップ）などでほって、根まで採集できるようにしましょう（むりやり取る必要はありません）。根は水あらいなどしてきれいにしましょう。1mをこえるような大きな草は先の方を40~80cmくらい切り取ります。花がつい

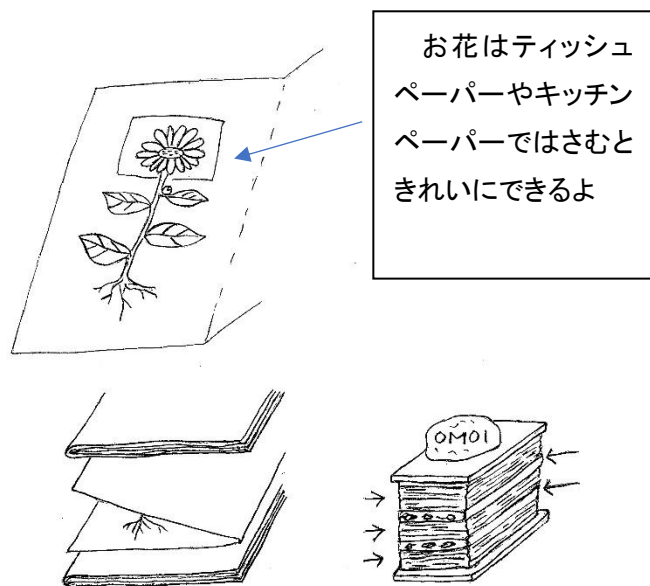
ているもの、実がついているものなどをえらんで採集しましょう。

- ・木は枝先 30~40cm ぐらいを切りとります。シダのなかまは根の近くの方に種類ごとの特ちょうが出るものが多いので、根のキワまでは必ず採集しましょう。
- ・採集した植物は大きなビニール袋の中に入れます。ビニールぶくろにはしめらせた新聞紙を丸めて入れておきます。根のついた草は、根に水でぬらしたティッシュをまいておきます。いくつか取るときには、デジカメで植物と生えている場所をさつえいして記録するなどして、どこでとったかわからなくなないようにしましょう。



2-2. おしばにしよう

- ・取ってきた植物はずかんでなまえをしらべて、新聞紙にはさみます。大きなものはおり返す、あるいは新聞の大きさごとに切って分けてもいいです。なまえがわからなければ、あけておいて、あとでしらべます。はくぶつかんなどにいくと、植物にくわしいせんもんかがありますので、なまえをきいてみましょう。
- ・はさんだ新聞紙の上と下に水分をきゅうしゅうさせるための新聞紙ではさみます。りょうは1日分くらいでよいです。
- ・一番上と下に集めの段ボールか板をおいて、おもしろやぶあつい本などをのせます。
- ・3時間くらいしたら、水分をきゅうしゅうさせるための新聞紙を取りかえます。このとき、へんな形に葉っぱがおれまがっている



か、葉っぱと葉っぱが重なっていないかなどをチェックしてきれいにととのえます。

- ・水分をきゅうしゅうさせるための新聞紙を 2 週間くらいは毎日とりかえます。かわきはじめると 2, 3 日に 1 度でだいじょうぶです。3 週間ほどで完全にかわいたおしばになります。日なたにおくと早くかわきます。こまめに新聞紙をとりかえると、花や葉の色がきれいにのこりやすいです。

2-3. ラベルをつくる

- ・標本にするためには、とってきた植物のじょうほうを書いた紙、ラベルが必要です。
- ・ラベルには、下のないようを書きこみます。
 - ① 植物の名前
 - ② 採集した場所
 - ③ 採集した場所の標高・環境（わかるはんいでだいじょうぶ）
 - ④ 採集した年月日
 - ⑤ 採集した人の名前

標本ラベルの例

※採集者の名前のおとにナンバーをつけておくとあとでせいりするときにべんりです。1 度使ったナンバーは 2 度とつかわないようにします。

※採集場所はカナやローマ字などをいっしょに書いておくとむずかしい地名でもよみ方がだれにもわかるようになります。

アサガオ
(ヒルガオ科)

採集場所: 奈良県吉野郡川上村迫(ならけんよしのぐんかわかみむらさこ)

標高: 約 350m

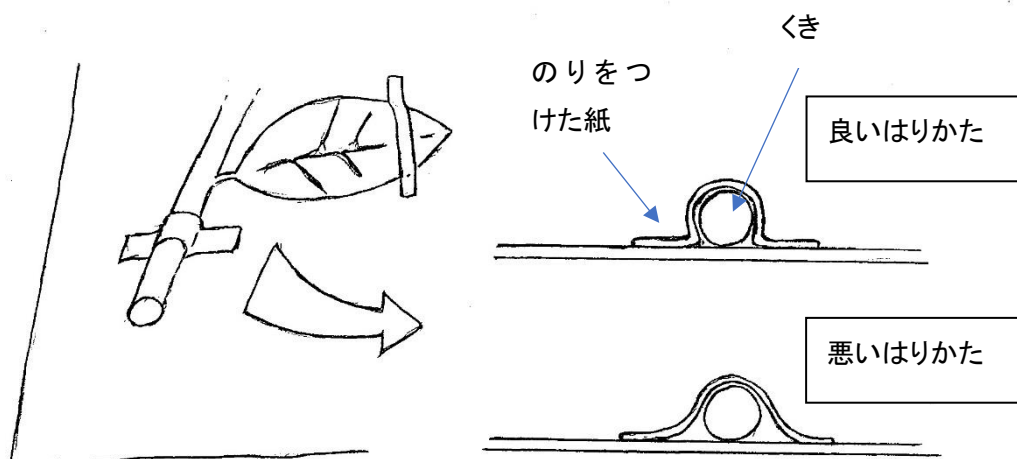
環境: 明るい道ばたのフェンスにからまって生えていた。

2019 年 4 月 1 日 源流 太郎 No.1

2-4. おしばを台紙にはりつけて標本にしよう

- ・標本をはりつけるための紙（はり紙）をつくります。紙は上質紙やしょうじ紙などじょうぶな紙がよいです。はば 5 mm ほどにほそながく切ります。
- ・台紙の上におしばをおきます。右下（あるいは左下）にはラベルをはります。
- ・はり紙にのりをつけてまず、くきのぶぶんをしっかりとまきつけるようにはりつけます。大きなくきは、何回かくりかえして、紙をほきょうします。おしばが動かないようにてき

- とうにはり紙をはっていきます。このとき、花をはらないようにします。
- ※ノリはアラビアのりかでんぷんのりを使います。合成ノリやセロハンテープは何年かするとはがれてしまうものがあるので使わないほうがよいです。
- ・タネや花などが落ちてしまったら、小さな紙にくるみ台紙にはります。

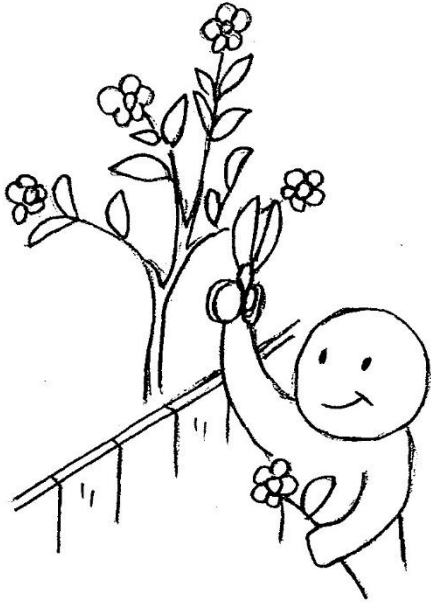


3. 保存

作った標本はビニールなどにまとめて入れて、防虫剤を入れておきます。防虫剤は、1年ごとに新しいものと交換します。こうしておくと、ずっと保存できます。ラベルに情報がきちんと書いてある標本は、博物館などに寄贈すると半永久的に保管してくれることがあります。ラベルのないものは受け入れてくれません。

※注意

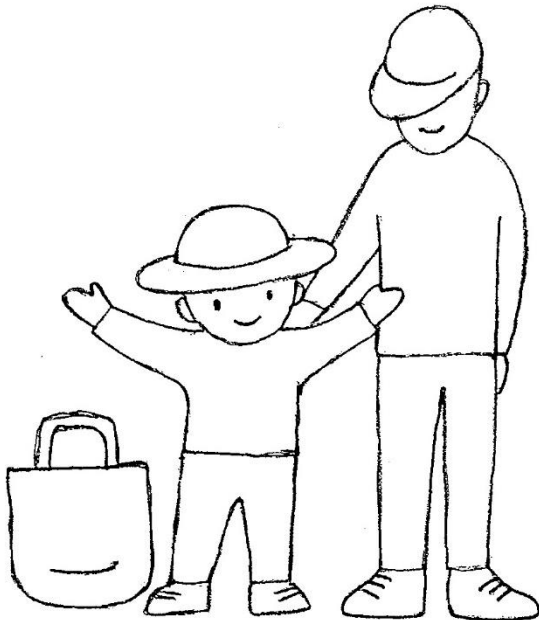
- ・花だんやうえきばちなどで人が育てているものは勝手に取ってはいけません。
- ・国立公園など自然をほごするために採集きんしの場所、神社やお寺などで森を守っているところでは取ってはいけません。
- ・ガケや池などあぶないところには行かないようにしましょう。
- ・不必要にたくさん取らないようにしましょう。
- ・植物をさわるとき、トゲがあるものは十分注意して採集しましょう。
- ・ウルシのなかま、イラクサなどさわるとかぶれる、チクチクする植物があるので注意しましょう。(ぼうし、長そで、長ズボンで肌の露出をさけるようにしましょう)
- ・野山には危ない生き物もくらしています。マムシ、ヤマカガシなどのどくへび、スズメバチ、ダニには注意しましょう。



育てているものにかけてにとらない！



あぶない場所に行かない！



長そで長ズボンではだを出さないように。
にっしや病にも気をつけよう！